

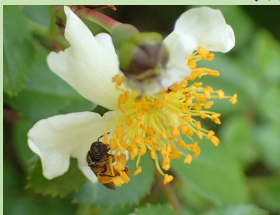
虫のために咲く花

サクラの花が咲いている間も、サクラの花が終わってからも、野山にはたくさんのお花が次々に咲きます。花の蜜と花粉は様々な昆虫の食物になるので、昆虫は食物を求めて、または食物にやってくるメスを求めて、花に集まります。

花の形は、やってくる昆虫を花が選ぶ手段になり、目立つ色は虫に食物があると宣伝しています。

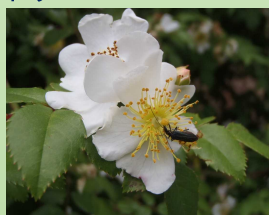
大まかには、蜜腺が外から見える浅い花と、蜜腺が奥深く隠された深い花があり、それぞれやってくる虫が違います。

アズマイバラ



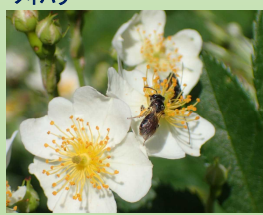
小型のハナバチ♀

ノイバラ



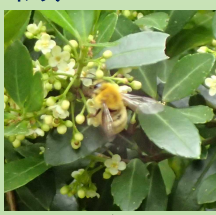
モモトカミキリモドキ

イヌツゲ



小型のハナバチ♀

オカラノオ



コマルハナバチ♂



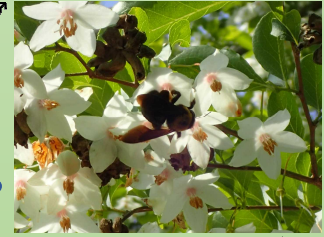
ヒメウラナミジヤノメ

浅い花

上向きに咲くと、虫は安定して花に乗って食事ができます。下向きに咲くと、虫にはちょっと努力が必要になります。花自体が小さくて蜜が少なくても、たくさん咲くことで、虫には良い食卓になります。色だけでなく、香りでも虫を引き付け、また夜にも夜活動する虫がやってきます。初夏には白・クリーム色の花が多くなります。

深い花

花卉などの花の部品が筒を作り、その奥に蜜が出るので、虫は奥に蜜があると知ったうえで、口を長く伸ばすことができないと、蜜を飲むことができません。太い筒なら花の中に落ち込まないといけません。どんな虫にでもできることではありません。



エゴノキ

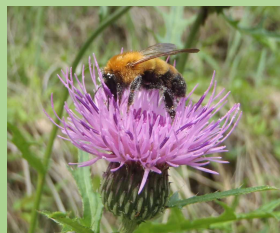
クマバチ♀

スイカズラ



トラマルハナバチ♀ 開く前の花をこじあける

植物は動けないけれども、一生の間に少なくとも2回、動かなければならない時があります。一つは種子の時、新天地へ移動しなければなりません。もう一つは有性繁殖の時、花粉は別の個体のめしべに移動しなければなりません(同じ個体の中での受粉は、ほとんどの場合無効です)。花らしい花は、花粉の移動の際に昆虫を使う手段として進化してきました。けれども昆虫は、花を助けるために来るのではなく、ただ食物が欲しいだけです。



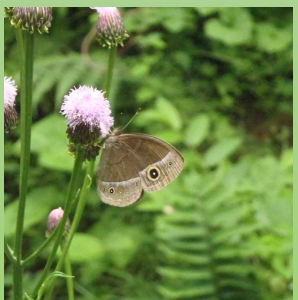
トラマルハナバチ♀



コマルハナバチ♀

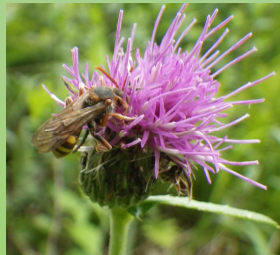


コマルハナバチ♂



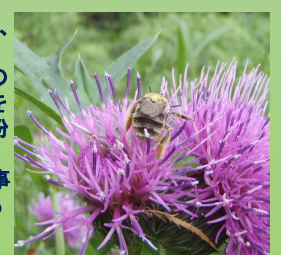
キツネアザミ

コジャノメ



キマダラハナバチ類

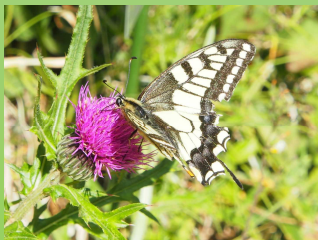
ノアザミはたくさん咲くわけではありませんが、蜜の量が多く、活発なマルハナバチ類が良くやってきます。マルハナバチは巣でたくさんの子供を育てているので、たくさんの蜜と花粉を集める必要があります。花はその労働力を送受粉に借りています。マルハナバチ以外のハナバチも、自分の食事以外に子育て用の蜜と花粉を必要としているので、花にとってはとても良いお客さんになります。



ヒゲナガハナバチ類



モモトカミキリモドキは、ノアザミでは花粉を食べる。アザミ類の花粉は、触った刺激で少しずつ押し出されてくる。



キアゲハ



ヒメキマダラセセリ



ダイミョウセセリ

